

「ワシントン・ポスト」と経済専門メディアの「ブルームバーグ」は10月1日、ニュース分野で提携すると発表。2010年1月から、両社の記事を新聞他社など報道機関向けに提供するサービスがスタートすることになった。両社は2社のブランドを使った経済ニュース専門サイトを立ちあげる一方で、ワシントン・ポストの記事をブルームバーグの情報サービスでも読めるようにするという。（アメリカの各メディアが報道）

ところで、「ワシントン・ポスト」と言えば、アメリカの多くの新聞が赤字のなかで、今年の決算が黒字になるという快挙を達成している。さる7月31日に発表された4～6月期決算は、最終損益が1140万ドルの黒字（前年同期は270万ドルの赤字）。売上高は、前年同期比2%増の11億2850万ドルだった。

新聞不況なのになぜ？と思うが、じつは、売上高は新聞事業では広告収入の落ち込みで14%も減少しているのに、教育事業（13%増）やケーブルテレビ事業（4%増）が堅調なのだ。ワシントン・ポストの教育事業と言えば、「カプラン」だ。カプランは、大学・大学院入試向けの予備校などを運営している。ここに、就職難の若者たちが、殺到している。

景気は回復したと言っているが、これはアメリカ政府のプロパガンダ。実際は、失業率がどんどん悪化しており、「二番底」に向かい始めているのは間違いないだろう。

The Washington Post

